

むがす、むがす

貧乏神と福の神がいました。

あるとき、貧乏神が福の神に、

「あんた、どの家にすみつくつもりだい」とききました。福の神は、

「おれは、早起きが好きだから、早起きの家にすみつくことにする」といいました。貧乏神は、

「おれは、早起きは嫌いだから、いつまでも朝寝する家にすみつくことにする」といいました。

福の神がすみついた家は、だんだん金持ちになっていきました。けれども、貧乏神がすみついた家は、だんだん貧乏になっていきました。

貧乏神がすみついた家の主人は、何とかして貧乏神を追い出そうと思いました。そして、いろりに塩をふって、火をのんのんたきました。すると、貧乏神が、

「こんなに暖かいと、もうここにはいられないから、よそへ行く」といいました。主人はよろこんで、

「そうか、そうか。そんなら、わらじを作ってやるから、待ってろ」といって、貧乏神にわらじを作ってやりました。ところが、貧乏神が出て行っても、なかなか金持ちにはなりません。それどころか、ますます貧乏になって、とうとう夜逃げをして、北海道まで行きました。

主人は、人の住んでいないあばら家を見つけて、やれやれと思いながら、ごろんと横になりました。すると、貧乏神があらわれて、

「やあやあ、ひと足先に来てたんだよ」といいました。主人はたまげました。そして、

「こりやあ、働かなければ、どこへ行ってもおんなじだ」と思っ、それから、早起きして、一生懸命働くようになったということです。

村上郁再話

資料『夢買い長者』佐々木徳夫／桜楓社